

彼らが使徒たちを引いて来て最高法院の中に立たせると、大祭司が尋問した。「あの名によって教えるはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレム中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている。」ペトロと使徒たちは答えた。「人に従うより、神に従うべきです。私たちの先祖の神は、あなたがたが木に掛けて殺したイエスを復活させられました。神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。私たちはこのことの証人であり、また、神がご自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことの証人です。」（使徒5：27～32）

原始エルサレム教会の働きは目覚ましく、町中で大騒ぎになった。その騒ぎは、教会に好意的なものであった。しかし、大祭司を中心にしたサドカイ派の人々は、民衆が関心を寄せる教会の働きに妬みを持って立ち上がり、使徒たちを捕えて、公の牢に入れた。すると、夜に天使が来て、牢の戸を開け、彼らを外に連れ出し、「行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい」と言った。使徒たちの働きに賛同し、広めてもらいたいという人がいたということであろう。天使のような賛同者によって牢を出た使徒たちは、夜明け頃、禁止されていたにもかかわらず、境内に入って教え始めた。

一方、大祭司とその仲間たちは集まり、イスラエルの全長老会を招集して最高法院を開催し、使徒たちを裁こうと牢から引き出すために、下役を差し向けた。下役たちが行ってみると、使徒たちは牢にいないので、引き返して、「牢にはしっかり鍵がかかっていたうえに、戸の前には番兵が立っていました。ところが、開けてみると、中には誰もいませんでした」と報告した。この報告を聞いた神殿の主管と祭司長たちは、使徒たちはどうしていなくなったのかと思い、惑った。その時、人が来て、「御覧ください。あなたがたが牢に入れた者たちが、境内で民衆に教えています」と告げた。そこで、神殿の主管は下役を率いて出て行き、使徒たちを引いて来た。しかし、民衆に支持されている彼らを痛めつけると、石を投げつけられることを恐れ、手荒なことはしなかった。

引いて来た使徒たちを、最高法院の中に立たせると、大祭司は、「あの名によって教えるはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレム中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている」と尋問した。主イエスの名によって教えるはならないと命じた。それにもかかわらず、教えを広め、イエスを十字架で殺した責任を我々に負わせようとしていると使徒たちを責めた。ペトロと使徒たちはまず、「人に従うより、神に従うべきです」と、人間であるあなたがたには従わないと明言した。そして、「私たちの先祖の神は、あなたがたが木に掛けて殺したイエスを復活させられました。神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。私たちはこのことの証人であり、また、神がご自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことの証人です」と語った。神はあなたがたが十字架で殺した主イエスを復活させられた。そして、罪を赦す救い主として、神の右に上げられた。使徒たちは、主イエスの復活を事実として見聞きした証人で、また、神に信従する人々に与えられた聖霊も、主イエスの復活の証人である。使徒たちは、復活を否定するサドカイ派の人々に、主イエスの復活を堂々と証言した。